

第一版

超前橋 大百科

Maebashi Urban design Encyclopedia



MDC
Maebashi Design Commission

一般社団法人 前橋デザイン Kommission

第一版

超前橋 大百科

Maebashi Urban design Encyclopedia



MDC
Maebashi Design Commission

一般社団法人 前橋デザインコミッション

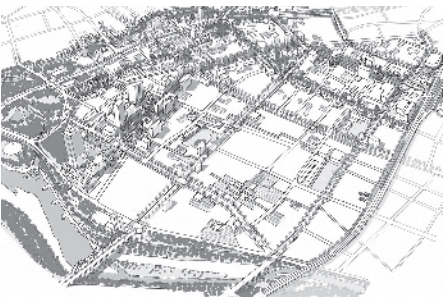
We build
Design city.

アーツまえばし【**アーツ前橋**】まちなかにある美術館。ミニ映画館も併設されている。06年に閉館したデパート「西友」の旧前橋WALK「館」が13年に美術館「アーツ前橋」として改修された。設計コンペを行ったことや、当時としては目新しいSNS等を通じたメディア戦略、〇〇美術館ではなくアーツという名称など広く注目を集めた。後のまちづくりに繋がるクリエイティブ・カルチャーの大きな契機であった。博物館法上は「博物館相当施設」に分類されており「ワクにはまらない」ところが価値である。

アーバンアグリカルチャー【**urban agriculture**】都市農業のこと。元々は都市部でのコミュニティ農園等を指すが、ビル内での植物工場や屋上農園等への進化がみられている。「まえばしハニープロジェクト」として前橋テルサ最上階ホテルの中庭で行われている養蜂もアーバンアグリカルチャー。前橋ではハエがいるかと思っただらミツバチだった…なんてことも。

アーバンデザイン【**urban design**】①都市における環境・空間・街並みなどを計画する都市計画の用語。Urban Designを直訳すれば「都市設計」であるが、広義の都市計画に対して、「工学的学術を都市工学、設計行為を都市設計、都市空間

の意匠やデザインをアーバンデザインと使い分けるのが一般的である。②「めぶく」ビジョンに基づいて19年9月に前橋市が策定したまちづくりの基本方針。市が中心となり市民の声を集め、地元・海外の専門家の力を借りてまとめた前橋中心市街地158ha（前橋駅〜中央前橋駅〜県庁）についての「なりたいたい姿」。同年に商工会議所が策定したまちづくりの指針「Green & Relax」が言葉を使わずに概念を示したものであるのに対して、ビジュアルな表現を含めた共通認識を示したもので対を成す性質のものである。③比較的ポピュラーな商号、組織名称。千葉県「柏の葉アーバンデザインセンター」に倣い全国に〇〇アーバンデザインセンターが多く設立された。「アーバンデザイン」という商号の不動産会社が前橋市内他、全国に複数存在する。MDCを「アーバンデザイン」センターのように名付かなかったことは前橋の慧眼である。



* MDC：前橋デザイン委員会

アーバンデザイン・ガイドライン【**urban design guidelines**】アーバンデザインに示されるガイドライン。まちづくりについてのデザインや、しつらえについての基準や視点が示されたもの。「見かけ」だけではない、本質的なエリアマネジメントに発展することが意図されている。

アイキャッチ【**eye catching**】目を引きつけること。02年から17年間「全国アマチュアちんどん競演会in前橋」が開催された「ちんどん文化」があり、非日常性と奇抜性、独自の様式性を備えたアイキャッチであると言える。

アクション・プラン編【**action plan**】アーバンデザインに示される具体的な取り組みパート。なりたいたい姿を実現するために行うこと（アクション）を例示したもの。

アクティビティ【**activity**】活動、日本では一般にレジャー活動を指すことが多い。「活動」ともいう1つ「活気」の意味があり、まちづくりでは出会いや交流のきっかけを生むのがアクティビティでありレジャー的なものだけではなく文化やビジネスも含まれる。15年グッドデザイン賞を受賞した「前橋〇〇部」は前橋発のアクティビティ・プラットフォームの一例である。

いと糸【**silk**】前橋の発展を支えた生糸（絹）産業。明治初期、前橋産生糸は欧米で高い評価を得ていた。前橋製糸場は日本初の洋式器械製糸場として富岡製糸場の2年前に稼働した。世界遺産富岡製糸場の官製大規模集約型とは異なり、前橋のそれは民間多極分散型が大きな特徴で事業者間の切磋琢磨が技術・品質を高めてきた。

ウォーカーブル【**walkable**】「居心地が良く歩きたくなる」文脈で使われる国土交通省用語。自動車中心ではない、人間中心、国が目指すこれからのまちづくりのキーワード。前橋もウォーカーブル推進都市だが、朝の中央通り商店街の国道50号側信号でのイエローダッシュは上り勾配とあいまって素晴らしいアクセセルの踏みっぷり。歩行者にとってはドキドキ・ウォーカーブル…。

えきまえばしやきなみきどおり【**駅前けやき並木通り**】アーバンデザインに示される将来像の1つ。JR前橋駅北口から始まる並木道、前橋の表玄関。建築家・丹下健三が戦災復興都市計画時に関わっていた。駅とまちなかを繋ぐ重要な南北軸。徒歩で県庁等行政地区に向かう人にとっては遠回りのため、この並木通りを満喫していないことも…。

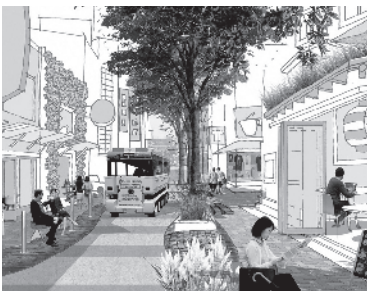
エコ・ディストリクト【Eco-district】
Ecology×Economy=Eco-districtの造語。アーバンデザインに示される3つの方向性の1つ。都市の便利さと自然と暮らす居心地の良さを兼ね備えた状態を示す言葉。米国のポートランド市における都市再生で生み出された概念で、「公正」「レジリエンス(抵抗力・復元力)」「気候保護」を三原則とする、「公正」「気候保護」を前提に都市が持つ復元力を引き出そうとする考え方。従来のコンクリート化優先の土木工事や人間性を無視した自動車優先の交通デザインから脱し、人が集う場所としての都市の本来価値に回帰しようという新しいチャレンジである。

えちぜんまつだいらけ【越前松平家】江戸時代、酒井家との国替えによって姫路から越前松平家の松平朝矩が1749年入封した。しかし、1767年前橋城が利根川の浸食を受けたため、藩主は川越に移転し前橋は川越藩の飛び地となった。1867年前橋城が再建され藩主が戻り再び前橋藩と呼ばれるまで、前橋は100年の城下町空白期間となった。

オープンスペース【open space】①アーバンデザインでは「オープンスペース」＝広場・空地・公開空地・寺社の境内」と定義。これらは利用率が志向されている。

きゅうのまち【Qのまち】9つ(きゅう＝Q)の商店街から成るまちなか中心部を表す言葉。北は広瀬川から南は国道50号まで、東は八展通りから西は国道17号までの市街地中心部約25haを指す。9つの商店街の配置を俯瞰すると「Q」字型になっている。

ぎんざどおり【銀座通り】9つの商店街の1つであり、アーバンデザインに示される将来像の1つ。自動車の往来が多い商店街の中で通行制限されている点の特徴。通りの端には水門の巨大なモニュメントがあり舗装デザインは水路を表現。マイバス以外の自動車交通が制限されているが、なぜかそれによつて通行する車両をよく見かける。



低い状態にあるため、広瀬川や前橋公園などの地域資源と一体的に活用することで価値が高まると示唆している。建設投資よりも手が付けやすいため、キッチンカーや暫定利用の工夫が賑わい手法として期待されている。②あき地。「ドラえもん」で描かれている土管が転がって雑草が生えている子どもの遊び場のような都市の隙間。今日では、少子化も相まって遊ぶ子どもも居ない…。

かぜのかい【風の会】前橋でビジネスや様々な活動を行っている中堅層を中心に16年結成。大きなコストをかけずに、メンバーそれぞれのスキルやネットワークを活かしてまちづくりに関わる活動の支援、すなわち「追い風」になろう、「新しい風」を巻き起こそうという団体。今後大きな風になることが期待されている。

かとりもとひこ【楯取素彦】幕末の長州(山口県)志士で、1876年に群馬県の初代県令(県知事)就任。県庁所在地を前橋に定め、地元財界と組んで臨江閣建設をはじめとした官民連携を実践した。前橋市民にとっては功労者であるが、高崎市民にとっては…。

かんみんれんけい【官民連携】アーバンデザイン
の底流を成す重要な考え方。古くは「官営工場くるまばしもん【車橋門】前橋城渡りやぐら門の跡。1867年に復興された。県庁前通り日経新聞前橋支局の裏手に前橋城車橋門の石垣の一部が保存されている。江戸中期に藩主が川越に移った際に城の大半が壊され、現在は県庁周辺の本丸土塁とこの石垣だけが残る貴重な遺構。城の敷地内の外から2番目の門にあたり、第1の門である大手門遺構が国道17・50号交差点西側に21年1月に発掘されたことあわせて前橋城の壮大さを伺い知ることができる。旧城内にいまも県庁・市役所があり、歴史的意義のなかでまちづくりは引き継がれている。

グリーン&リラックス【Green & Relax】前橋
ビジョンに呼応して商工会議所が作成したまちづくりの指針。市策定の「前橋市アーバンデザイン」と対を成すもの。緑がストレス社会に暮らす現代人にリラックスを与えることで集中力と感性が高まりクリエイティブの生産性を向上させる。街に緑を増やすことでクリエイティブ人材を増やし、新たな発想で街を創造していくという考え方。

ぐんまイノベーション【群馬イノベーション】略称GIA。13年から開催されている、ビジネスモデルコンテスト。上

毛新聞社主催、田中仁財団共催。高校生から社会人、スタートアップから実績ある事業者まで広く部門設定がされている。12月にグリーンドーム前橋で大勢の応援や、投資対象発掘目線のプロも見守る中、各部門のファイナリストによるプレゼンが行われる。起業家マインドを醸成し地域が支援するという、地域活性化への貢献度も高い。

ぐんまイノベーションスクール【群馬イノベーションスクール】略称GIS。14年スタートの起業家・地域活動家養成講座。ビジネススクール教授や経営者の指導を通じ実践的なビジネスモデルを無料で学べる。まちづくりにおける中核人材を多数排出しており地域にとって重要な存在となっている。卒業生は「入ってよかったGIS」が合言葉。

けやきなみきどおり【けやき並木通り】アーバンデザインに示されるモデルプロジェクトの1つ。JR前橋駅北口から県庁に至る大通りは、1950年に戦災



復興として植樹されたけやき並木。アレックス・カーの伝えたい日本の風景100にも選ばれた市民の誇り。

けんちようまえけやきなみきどおり【県庁前けやき並木通り】アーバンデザインに示される将来像の1つ。国道17・50号の交差点から県庁までの官公庁施設集積エリア。

こうすいぜき【交水堰】広瀬川にある堰。製糸業が盛んな時代、1mの落差を活かし水車を稼働。水位を上げて用水路に取水するための堰でありその勢いある水流を取り込む取水口が今も当時の名残を留めている。「交水堰(こうすいぜき)」あるいは「十五本堰」ともいわれ、かつてはこのような堰が数多くあり水力がまちの原動力であった。

コム【comm】旧新星堂ビルを市民参加によりセルフリノベーションした物件。MMAの拠点であり、主たる機能はスタートアップ企業や大学などが入居するシェアオフィスだが、地下ではヨガなどのカルチャースクール、3Fは会議、パーティ等を行えるフリースペース、最上階は居住空間という「職住学」が混在したTheミクストユースな施設。

コンパクトシティ【compact city】①都市機能

の郊外拡大基調におけるその抑制と中心市街地活性化を図る考え方。米国の「ニューアーバンズム」、英国の「アーバンビレッジ」に類似したものの、②必要機能を集約したまちづくりのこと。徒歩圏内で働き暮らすことで居心地良く暮らす空間。歩いて行ける範囲を仕事や暮らしの包括的生活圏とし、居心地の良さやコミュニティの再生を目指したまちづくりの考え方でアーバンデザインの底流を成すものである。

さくたろう【朔太郎】前橋出身の詩人・萩原朔太郎。詩集「月に吠える」など。「日本近代詩の父」と呼ばれる。文語定型詩(古い言葉×五七五等のルール)や文語自由詩(古い言葉×ノールール)が主流の明治・大正期にあって、口語(現代の言葉)で五七五のようなリズムや韻を踏むといったルールに縛られないスタイルを日本で定着させた。現在も主流である口語自由詩というスタイルを切り拓き、確立したトレンドセッター・朔太郎に続けるような口語自由なまちづくりを前橋でも推進したい。

シェアオフィス【shared office】複数の企業や個人が働く環境を共有するオフィス。レンタルオフィスや coworkingスペースなどの言葉と同様に用いられがちだが、一般には個室があるも

のをレンタルオフィス、「机貸し」がシェアや coworkingと分類する。前橋の代表例には、県庁32階の「NETSUGEN」というハイスペック施設がある。中央通り商店街にある「comm」、銀座通り商店街の「前橋市創業センター」等の地元のクリエイターによる草の根的な取組のほか、不動産事業者系の提供するものなどが複数存在するが、稼働率は高くなく供給過剰の状態ともいえる。

じてんしゃのまち【自転車のまち】前橋市によるキャッチフレーズのひとつ。1990年世界選手権自転車競技大会トラックレースがグリーンドーム前橋で開催、日本で唯一世界最高峰レースが行われた自転車のまちである。1950年開設の前橋競輪は、60年代には市財政の1割近くが競輪収益で賄われていたこともある重要な産業である。

しもむらぜんたろう【下村善太郎】初代前橋市長、1892年に就任。17歳から家業を継いだが、賭博や米相場で失敗するなど波乱の時代を経て生糸商として成功する。市長就任翌年には病気のため辞任し、その2日後には67歳で亡くなっている。明治維新後、県庁舎整備に私財を投じるなど、前橋のまちづくりに大きな貢献をした。市役所前にはハットを持った着物姿のオ

シヤレな銅像がある。

シビックプライド【civic pride】「我がまち」に愛着を持つこと。市民の前橋に対する誇り。それが、具体的言語化・可視化され行動できていること。

しょうぎょうじく【商業軸】アーバンデザインに示される長期プランの視点である2軸の1つ。前橋駅から広瀬川までの南北に広がる商業的視点的に重きが置かれている、にぎわい創出を意識して取り組むべき軸。もう1つは文化・健康軸。

じょうもうでんてつ【上毛電鉄】前橋と桐生をつなぐ鉄道。上電の呼び名で愛されるローカル線は、懐かしい東京の井の頭線の車両が走っている。自転車のまま乗れる列車が最大の特徴。通勤時間帯の利用を除く点はご用心。

しょうらいぞう【将来像】アーバンデザインに示される市民の声に基づいて設定された9エリアの将来像。

しんかんせん【新幹線】前橋にはない。
せんしんてきまちづくりたいしょう【先進的まちづくり大賞】他の地域のモデルとなるような、都市課題の解決や次世代型都市の創出に繋がる先進的なまちづくりの取組を表彰するもの。20年、まちなかを代表して前橋市とMDC

の大地からの際限なき芽吹きにより、将来鐘が緑が包み込むようデザインされているが、すでに緑で鐘が見えない。まちづくりは力を合わせて行うべきものである、というメッセージを込め、1人の力では撞く事のできない24mもの長大な撞木がデザインされている。

たかさき【高崎】前橋に隣接する都市。「双子都市」との表現があるが遺伝的根拠はない。前橋、高崎揃って中核都市幸福度ランキングで度々トップテン入りし魅力を競いあっているが「仲間が悪い」というのは誤解である。

ちゅうおうおうちどり【中央通り】9つの商店街の1つであり、アーバンデザインに示される将来像の1つ。創業100年以上の超老舗から、行列の絶えない人気店まで複数存在し活気のある通り。別名「ローズアベニュー」。商店街のイメージキャラクターは「チヨちゃん」。

ちゅうおうまえばしえき【中央前橋駅】アーバンデザインに示される将来像の1つ。1928年に開業した上毛電気鉄道の始発駅。生糸の前橋と機織りの桐生を結び、繊維製品を東京や横浜に輸送することを目的に開業された。

デザイン【design】見た目の美しさといった感覚価値だけでなく多面的な存在意義を訴求するも

の連名で国土交通大臣賞Ⅱ最高賞を受賞。「できあがったモノ」ではなく、官民連携でアーバンデザインを策定した事、それを推進する為の組織が民間主体で立ち上がった「まちづくりの仕組み」が先進的だと認められたもの。評価に相応しい成果をあげていくのはまだまだだが、勢いが増したのは間違いない。

たいようのかい【太陽の会】前橋ビジョンに共鳴した前橋にゆかりある企業家有志、いわゆる旦那衆が16年結成。前橋の次世代の芽を育てる太陽になろうという思いから、各社毎年純利益1%（最低額100万円）をまちづくりのために寄付。18年の「太陽の鐘」修復・復元、設置が紺綬褒章を受けており、起業家支援などのほか、20年着手の馬場川通り河川歩道整備プロジェクトへの寄付を行っている。明治期、前橋のまちづくりに貢献した「前橋25人衆」の21世紀版といえる活動を行っている。

たいようのかね【太陽の鐘】日本が世界に誇る芸術家・岡本太郎によるパブリックアート。伊豆のレジャーランドに設置されていたが、施設の廃業により倉庫に眠っていた幻の作品。この鐘は、「太陽の会」の寄付により広瀬川沿いに復元移設された。周辺設計は建築家・藤本壮介。前橋

の。デザインの本質的概念は「Design: 決まり事を疑い再構築すること」である。「Green & Relax」の中で戦略として掲げられている「デザイン都市」は、従来のやり方に固執することなく多様な発想を柔軟に取り入れ「新たな価値を創造している」というもの。表層的なまちづくりなのではないかと誤解されがちな用語でもある。

としさいせいすいしんほうじん【都市再生推進法人】都市再生特別措置法に基づいて市町村長が指定するまちづくりを担う法人。同法による公的な位置づけを得ることで、都市利便増進協定等を利用したまちづくりの推進が可能になる。前橋市では前橋市まちづくり公社とMDCの2団体が指定を受けている。

とねがわかはん【利根川河畔】アーバンデザインに示される将来像の1つ。流域面積日本一。前橋公園の親水エリアにある噴水は調子の良い時は30mの高さまで噴き上がるらしい。



ニューイヤーえきでん【**ニューイヤー駅伝**】毎年1月1日に開催される全日本実業団対抗駅伝競走大会。前橋スタート・ゴールの県内100kmで争われる。1988年の第32回から群馬で開催することとなった。一年でもっとも全国の注目が前橋に集まる機会であるが、「ハコネ」のような地域ブランドディングにつながる愛称にならなかったことが悔やまれる。テレビでお茶の間にお届けされるのは「からっ風」「赤城おろし」と、寒いイメージばかり…。

はなもゆ【**花燃ゆ**】15年放送のNHK大河ドラマ。主人公美和（井上真央）は吉田松陰（伊勢谷友介）の妹で後に初代群馬県令楢取素彦（大沢たかお）の妻となる。終盤41話から前橋編、からっ風で土埃舞う県庁舎前で拳銃を持った追いはぎに襲撃されるシーンからはじまり前橋のワイルド感が全国にPRされた。大河ドラマ最低視聴率12.0%という貴重なポジションは、19年『いだてん』8.2%によって更新された。

ばばっかわどおり【**馬場川通り**】9つの商店街の1つであり、アーバンデザインに示される将来像の1つ。歩道の脇を流れる小川が地域で愛される馬場川。それに沿った通りの名称。MDCによるアーバンデザインのリーディングプロジェクトが進行中。



* MDC：前橋デザイン委員会

ひろせがわかはん【**広瀬川河畔**】アーバンデザインに示される将来像の1つ。「水と緑と詩のまち」を象徴する河畔エリア。前橋文学館や移築された萩原朔太郎生家も配置され文化的な川沿い空間。将来像では3つの具体的手法、賑わいの演出手法、歩きやすい空間の作り方、活用の仕方が示されている。どう使うかはあなた次第。

ふらすこ【**フラスコ**】現在のまちづくりのきつかけになった市民活動の拠点（現存せず）。スズランの裏手にあった小さなコミュニティスペースで地元クリエイターによる集まり「MAEBASHI CREATORS ACT」が運営していた。「まちづくり」をコンセプトにイベントを開催、クリエイターがまちなかに集まる契機であり、のちにまちづくりの担い手となる若者が街に集うきっかけになった。前橋まちづくりの黎明期を語る上で欠かせないキーワードだが既に忘れ去られようとしている。

ぶんか・けんこうじく【**文化・健康軸**】アーバンデザインに示される長期プラン的視点である2軸の1つ。まちなかを東西に結ぶ、緑や水、心地良さをテーマにした前橋の歴史や自然環境に注目した軸。もう1つは商業軸。

ぶんがくかん【**文学館**】前橋文学館。広瀬川沿い

ビジョン【**vision**】①Vision、形容詞ではビジョンアル。視覚・展望・構想・映像など広い意味がある。②まちづくりやビジネスでは、物事に取り組むうえでの上位概念であり「なりた姿」を示したものの。その主体の特性（特徴や強み）を踏まえて、理想的かつ実現可能性のあるものが望ましい。前橋のまちづくり関係者はビジョンをもったメガネの人が多い。

ビジョン・プラン編【**vision plan**】アーバンデザインに示される理念共有パート。これから街で何をしたいのかを実現していくための将来像やライフスタイルなどを示している。

ひろせがわ【**広瀬川**】アーバンデザインに示されるモデルプロジェクトの1つ。中心市街地を流れる川。癒やしを求めて訪れると、その激流にむしる突き放されることも多い。宮城県仙台市の同名一級河川よりも有名だと前橋市民は信じている。

にある。「水と緑と詩のまち」を象徴する、朔太郎を中心とした展示を行う施設。現館長は朔太郎の実孫。

べんてんどおり【**弁天通り**】9つの商店街の1つ。前橋を代表するレトロ商店街。呑竜横丁という小さな飲み屋街を内包。全国的にも珍しい川の流れのようにカーブを描くアーケードが素敵で、ノスタルジックな雰囲気を出している。毎月3日に縁日が開催されるなど弁財天を中心とした文化が根付いている。

まえさんひやかてん【**前三百貨店**】1964年、群馬県初の本格百貨店として千代田町（現前橋テルサ）に丸三百貨店（後に改称）開業。宇都宮や水戸では呉服屋母体の百貨店が先行するなかで、地元政財界が中心となり出資を募って設立したものであり、経営ノウハウの面では三越の支援を得た。その後、丸井・ニチイ・西友（西武）・スズラン等の競合立地が進み、1985年累積赤字34億円で閉店した。

まえばしえききたぐちしゅうへん【**前橋駅北口周辺**】アーバンデザインに示される将来像の1つ。ショッピングセンターの撤退などがあつたが、駅前を盛り上げようという機運が高まり20年にアクエル前橋がオープン。さらに東

側では再開発が進んでいる。実は駅前温泉が充実している。

まえばししアーバンデザインきょうぎかい
【前橋市アーバンデザイン協議会】アーバンデザインに関する活動を担う団体の連携調整を行う場。まちづくりに関わる市役所関係部局や議会、大学、商工会議所、商店街、公社、青年会議所、MDCなど産学官民の様々な団体が構成され20年発足。関係機関との情報共有や協力関係構築に重要な機会。「好き勝手にやってる状態」や「私は聞いてない」をなくし、手伝いやしやすい状態をつくりだすための大人の集い。

まえばししまちづくりこうしや【前橋市まちづくり公社】公園や施設など公共空間の管理と活用を行う都市再生推進法人。前橋市公園緑地協会など、公園やグリーンドーム等の管理を担ってきた諸団体を統合再構成して16年に現組織化。駐車場等の公共施設管理と、まちづくりイベント・スポーツ・健康増進・芸術文化教養事業の推進を担う。

まえばしデザインミッション【前橋デザインミッション】アーバンデザイン推進を担う都市再生推進法人。通称MDC。民間からの会費のみで19年11月に設立された一般社団法人

いる。主に若者をまちなかに引き込むコミュニティハブとなる事が多い。社風として自由なライフスタイルを推進している。

まちなか【まちなか】中心市街地のこと。前橋市では25haの「Qのまち」エリアのことを指し、「まちなか」と記載するのが一般的。

まちなかけんきゅうしつ【まちなか研究室】
 中央通り商店街に15年開設。「前橋ビジョン委員会」や「群馬イノベーションスクール」の会場、「太陽の会」や「MMA」の初期活動拠点となってきた。現在は、それらの機能の核は「comm」（18年開設）に移っており、「MDC」の打合せやまちづくりの議論の場として活用されているほか、まちの定点観測拠点を兼ねた社宅としてミクスْتُユースされている。夜中もおじさんがゴソゴソしているが、審査者ではない。

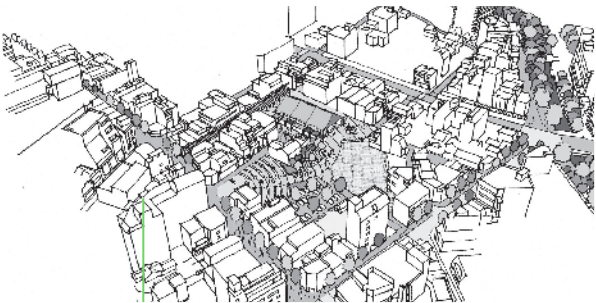
ミクスْتُユース

【Mixed-use】アーバンデザインに示される3つの方向性の1つ。①複合用途のまちづくり。日中は人気（ひとけ）のない「住宅



地」や、日中しか人が居ない「オフィス街」のような単用途（シングルユース）ではない、住・職・商・学などの用途が偏らずに存在する常に活気のあるまちを目指す。②複合用途の建物。街路に面した低層階に店舗、中層にオフィス、高層に住宅といった形で単用途ではない建物。こうした建物が増えることで、まち全体のミクスْتُユースにも寄与する。

みどりのひろば【緑の広場】アーバンデザインに示されるモデルプロジェクトの1つ。まちの結節点として大規模駐車場を緑豊かな広場にして、市民が集い憩える場所にする提案。菜園プランターを置いたりベンチを置くなど、民間の資金とアイデアにより低未利用地の活用を検討することとしている。



で、中央通り商店街に事務所を構えている。直訳すると「前橋の『設計』『運営委員会』」となり設計業界団体的な印象を受けるが、

「前橋の将来像を実現するため
 の団体」が正しい。Commission
 には、委任・手数料・委員会などの広い意味があり手数料には「わいろ」の意味が含まれていたり、マフィアの組織を指すこともあるが、MDCは極めて健全な団体である。

まえばしにじゅうごにんしゅう【前橋二十五人衆】明治時代にまちづくりに私財を投じた近
 代都市前橋の基礎を築いてきた、下村善太郎（初
 代前橋市長）を中心とした前橋の有力者25人。

まえばししまちなかエージェンシー【前橋まちなかエージェンシー】デザインでまちなかをもっと面白く、を推進する一般社団法人。通称MMA。前橋ビジョン発表会で発表されたビジョンプロジェクトの一つで、「めぶく。」の体現者。ローカルでの暮らしを再構築して前橋をもっと面白くしようと独自のビジョン「LOCAL LIFE DESIGN」を掲げる。その名称の通り「前橋のまちなかの代弁者」として様々な活動をサポートして



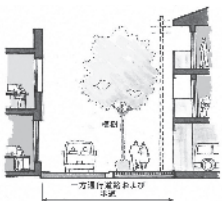
めぶく。【めぶく。】16年策定の前橋ビジョン。前橋市の最上位計画である第七次総合計画において地域全体で共有していくビジョンとして掲げられている。ドイツのコンサルティング会社が現地ヒアリングや3000人もの市民アンケートなど俯瞰的観点から生み出した言葉「where good things grow(良いものが育つまち)」を前橋市出身の糸井重里が日本語に解釈したものの。民間共創により100年先を見据えて策定された。グリーンドームで行われた前橋ビジョン発表会は平日夕方にも関わらず約4000人が参加した伝説的な日となった。ビジョンと共に示されたボディコピー(最終ページ見開きを参照)には、自身のさらなる芽吹きはもとより他者の芽吹きも支えられる温かい市民となり、前橋を芽吹きの大地にしていこうというメッセージが込められている。

めぶくフェス【前橋めぶくフェス】前橋ビジョン「めぶく。」を体現する芽吹きの祭典。フード・クラフト・アートの3部門を中心に、未来の大樹を隠し持つ、まだ幼い芽を発掘紹介し、みんなで応援するためのお祭り。

モデルプロジェクト【model project】アーバンデザインに示される高い効果が期待できる主要

りよくか・りよっか**【緑化】**アーバンデザインに示されるガイドラインの1つ、市街地などに草木を植え緑をふやすこと。「水と緑と詩のまち」というキャッチフレーズのとおり、今もけやき並木や広瀬川河畔などの緑が前橋の重要な景観要素となっている。アーバンデザインではこの要素に着目して「前橋らしさ」を強化することが意図されており、「Green & Relax」では緑が持つ快適性やクリエイティブティへの効果が述べられている。今後はさらに高いデザイン価値、緑化技術の向上、環境・人間性への効果定量化がアーバンデザインの取組み課題である。

リンク【link】アーバンデザインに示されるモデルプロジェクトの1つ。大通りではなく、人を中心にした街路で主要施設を結んでいる。るなはあく周辺から、銀座通りへ通じる道を軸に中央通り・馬場川通り・千代田通りで構成される中心部、そこから八幡宮公園までをウォークアブルな賑わいの中心にすることが描かれている。「link=繋がり」は、自動車中心の都市化で分断されたまちなかを繋ぎなおすためのアーバンデザイン・モデルである。



な軸やエリアにおけるプロジェクトについての提案。「けやき並木通り」「広瀬川」「リンク」「緑の広場」の4つ。

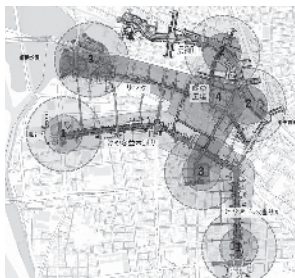
よいものがそだつまち

【良いものが育つまち】

出る杭が打たれないまち。

リノベーション【renovation】①既存の空き地

や空き家などの遊休不動産を活かしつつ「新たな用途や価値を付加」して資産価値を向上させること。リフォームが「建築物の老朽化、陳腐化を補う」ことと使い分けられるが、英語ではいずれもrenovationでありreformは建築用語ではない。②10年後には全国の小規模建築物の30%が空き家となる試算も出ておりその活用は社会課題である。社会資本効率の側面だけではなく、「味のある」建築物の意匠や空間的価値は新築では生み出せない価値であり、その評価と活用はアーバンデザインが目指すローカルファースト(地域資源としての建築資産)やエコデイストリクト(スクラップ&ビルドばかりではない)のキーである「前橋らしさ」を将来に残す重要な取り組み。



るなばあく【るなばあく】開業70年近い遊園地、前橋市中央児童遊園の愛称。開設時から現存する木馬は国登録有形文化財。入場無料で文化財の木馬に10円で乗れるほか、50円から様々な遊具が楽しめる。最近では木製の立体迷路が新設されるなど、意匠などに配慮しながらも子どもたちの「わくわく」に添えてくれるなど「前橋らしさ」を失わない進化が続いている。

ローカルファースト【Local-first】アーバンデザインに示される3つの方向性の1つ。地域特有の「人・モノ・情報」に着目して持続的な地域の魅力をつくりだす考え方。一般的な「地産地消」的な資源の発掘にとどまらない成長性を重視し、「地域への賛同者」を集めて「前橋らしさ」を認識・創出するものである。

わぬき【わぬき】①1909年に制定された前橋市の市章。前橋藩の藩主松平氏の馬印「輪貫」からとったもの。○の外円と内円の比は1対0.73と決まっている。②SNSで話題を集めた中央通りの人気和菓子店のどら焼き。市章をモチーフにしていることは、嬉々として行列する人のほぼ誰も知るよしもない。



第一版 超前橋大百科

二〇二一年三月六日 第一刷 発行
発行 前橋デザインコミッション
協力 前橋市
編者 前橋市アーバンデザイン協議会
高橋悠香
日下田伸
橋本薫
印刷所 前橋まちなかエージェンシー
朝日印刷株式会社

一般社団法人 前橋デザインコミッション

〒371-0023

群馬県前橋市本町 2-1-6

TEL : 027-289-3773

FAX : 027-289-3774

MAIL : info@maebashidc.jp

HP : www.maebashidc.jp

MDC
Maebashi Design Commission

Where good things grow.

その芽は、まだ小さい。

風に吹かれ、雨を待ち、太陽の熱さにその身をあずける。

そしていつか、枝をつけ、葉を繁らせ、

強く太い幹となる日を夢見ている。

人は芽だ。この地は芽だ。そしてつながりは芽だ。

いまは若い芽だけれど、未来の大樹を隠し持つ芽だ。

Where good things grow.

この地ではじまる、芽ぐみ。

ここから、よきものが伸びてゆく。

いくつもの芽が育ち、やがては大きな森をつくっていくだろう。

Where good things grow.

わたしたちは、この地の芽吹きのために、

未来に希望の森を見るために、

厳しくも優しい風になろう。

慈しみの雨になろう。

そして、なによりも熱い太陽になろう。

Where good things grow.

きっと、芽吹く。

前橋の大地の下にはたくさんの種が、そのときを待っている。

め
ぶ
く。

